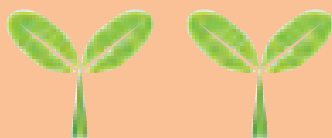




第2章



カリキュラムと ラーニングデザイン



1 0歳児・1歳児カリキュラム

【0歳～3歳未満】

新生児から3歳未満のカリキュラム

知
徳
体

「子どもの育ち」
「経験させたい主な活動」
「教育的意図をもった働きかけ」
「家庭との連携」
で示しています。

歳児

歳 か月頃～ 歳 か月頃

各時期の子どもの発達を踏まえ、
育みたい姿に向けたねらいを示しています。
(0歳～2歳は3か月ごと)(2歳～3歳は
6か月ごと)の期間で表記しています。

ねらい		
	発達のめやす (歳頃～ 歳 か月頃)	
子どもの育ち	知	
	徳	
	体	
経験させたい主な活動		
教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	
	徳の視点から	
	体の視点から	

一人ひとりの発達の道筋を理解しながら、成長の過程として受け止めてもらいたいので「発達のめやす」と表記しています。

子どもの発達を踏まえ、発達に応じて経験させたい活動を具体的に表記しています。

発達のめやすを踏まえ、経験させたい主な活動に対する教育的意図をもった働きかけを知・徳・体の視点から記載しています。

事例 4

教育的意図をもった働きかけを、より具体的に示している事例番号を掲載しています。

家庭との連携

家庭での生活と就学前施設での生活の連続性は、子どもの育ちを支えるために欠かせないものです。保育の意図を理解できるように説明すること、保護者の疑問や要望には対話を通して対応すること、保育者と保護者の間で子どもに関する情報の交換を細やかに行うこと、子どもへの愛情や成長を喜び気持ちを伝え合い、保護者との相互理解を図ることが必要です。

0歳児から2歳児までの時期は、身体面での著しい発達や発育が見られる重要な時期です。身近にいる大人が、子どもが示す様々な行動や欲求に受容的・応答的に関わることで、特定の大人との間で情緒的な絆が形成され、愛着関係へと発展し、情緒の安定が図られます。こうした情緒の安定を基盤として心身の発達が促されるなど、人として生きていく土台がこの時期に作られます。

また、この時期は、周囲の人や物、自然等様々な環境との関わりの中で、少しずついろいろなことを理解し、分類しながら自己という感覚を獲得していきます。乳児期からの保育の積み重ねは、その後の成長や生活習慣の形成、社会性の獲得等にも大きな影響を与えるものであり、子どもの主体性を育みながら保育を行うことが大切です。その際、発達の連続性を意識するとともに、3歳児以降の成長の姿についても意識して保育を行うことが重要です。

このようなことから、この時期においては子ども一人ひとりの発達過程や状況を十分に踏まえ、個別的な計画を作成する必要性があり、より具体的な子どもの日々の生活に即した短期的計画を作成する際に参考となるよう、3か月ごとの発達のめやすを示しました。また、発達を踏まえ育みたい姿に向けたねらい、さらに発達に応じて経験させたい活動を具体的に表記しました。

ここで示した発達のめやすは、年齢・月齢区分になっていますが、均一的な育ちの基準として見るものではありません。子ども一人ひとりの育ちには違いがあること、子どもの育ちの過程として理解し、一人ひとりの子どもに応じた援助のあり方を考えるために示したものです。

また、保育所保育指針では、保育における「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である。さらに「養護」と「教育」が一体となって展開されるものであることに留意する必要があると示されていることから、「教育的意図をもった働きかけ」には「養護的関わり」も含め、さらに知・徳・体の視点から記載しています。

＜指導上大切にしたいこと＞

0歳児は、視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達するとともに、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成される時期です。これらの発達の特徴を踏まえ、保育者が愛情豊かに受容的、応答的に関わることに特に大切です。

1歳児は、基本的な運動機能が次第に発達し、身体的機能が整うとともに、指先の機能も発達し、食事、衣類の着脱等、保育者の援助のもと、自分で行うようになります。また、発声が明瞭化し、自分の意思や欲求を言葉で表出しようとする時期なので、生活の安定を図りながら、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、受容的、応答的に関わる必要があります。

(新生児～56日頃) (56日頃～3か月頃)

ねらい	○見る、聞く、触れるなどの、様々な感覚を経験する ○あやされると笑ったり、声を出したり、保育者との応答的な関わりを喜ぶ ○個々のリズムで安定して眠り、飲み、機嫌よく過ごす		
	発達のためやす (新生児～56日頃)		発達のためやす (56日頃～3か月頃)
子どもの育ち	知	○明るい光や音がする方向に反応を示す ○快（授乳後、目覚め、入浴後、あやされている時など）と不快（空腹、眠い、おむつが汚れているときなど）の様々な感情を、泣くなどの行動や表現で表す	○光（明るい光、優しい光等）に反応する ○機嫌がよいときなど「アー」「ウー」という声を出すようになる
	徳	○大人に抱かれたり、優しく言葉をかけられたりなど関わってもらうことで、受け止めてもらえる心地よさを感じる ○保育者の顔等、目の前の物をじっと見つめる	○不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く ○抱かれると泣き止んだり、安心した表情になったりする ○あやされたり話しかけられたりすると、よく笑うようになる ○音や人の声の方に反応し、その方向を見る
	体	○物を持たされると、少し握りしめる ○おむつ交換時や入浴時に手足を動かす ○目覚めている時は、両手を体の横に伸ばしたり、手足を盛んに動かしたりする ○寝ている時は、頭は左右どちらかを向き、腕は肘を曲げてやや握っている ○手指を口に持って行ってなめる ○視野に物を差し出して見せると、注視する ○物音にびくっとしたり、目を覚ましたりする ○眠りに入るようなまどろんだ状態の時や、浅い眠りの状態のときに、口角があがって微笑む ○母乳やミルクを飲むとき、排泄時以外はほとんど眠っている	○手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる ○仰向け姿勢で、手と手、足と足を触れ合わせるなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる ○首が座り始め、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる ○うつ伏せの状態にすると、頭を少し持ち上げる ○手と手、手と口の協応ができ始める ○周囲の動く物を追視できるようになる ○1日の中で、眠りと覚醒が何度も繰り返され2時間くらい続けて起きられるようになる ○舌の前後の運動で、ミルクや母乳をよく飲むようになる
この時期は、一人ひとりの生活リズムに合わせて、生理的欲求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする		経験させたい主な活動	・音のなる玩具を目で追ったり、触ったりする（ガラガラ、吊玩具等） ・肌触りのよい素材の玩具を触ったり、握ったりする（タオル人形、布ボール、握りやすい玩具） ・ふれあい遊びをする（赤ちゃん体操、くすぐり遊び、ベビーマッサージ） ・体調、機嫌がよい時は、外気に触れる

<家庭との連携>

- ・育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い、発達に対する不安や戸惑いを受け止め、共に子育てを進められるように保護者との関係づくりに努める。
- ・生理的欲求を満たすとともに、声をかけたり、スキンシップをしたりするなどの対応の仕方や大切さを知らせていく。
- ・子どもの24時間の生活が相互に分かるように連絡ノートを活用して、睡眠、授乳、便、機嫌、体調の変化等について共有する。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・おむつ交換や授乳時などは「○○しようね」など言葉をかけながら関わる ・音の出る玩具や動くものを見せながら優しく言葉をかける ・視線を合わせ、子どもの表情や動作に応じた言葉がけを表情豊かに行う
	徳の視点から	・保育者が優しく言葉をかけながら、穏やかな雰囲気です母乳したり、眠らせたりすることで、安心感、信頼感を育む ・ふれあい遊び等で、スキンシップを図り、心地よい経験ができるようにする ・一人ひとりの生理的欲求を十分に満たしながら、気持ちを受け止めることを大切にする ・意図的に同じ保育者が関わることで、愛着関係を築き、安心して過ごせるようにする
	体の視点から	・視覚や聴覚等を刺激するような働きかけをする ・個々の発達の状況に合わせ、少しの間うつ伏せで過ごす時間をつくる ・体調や機嫌を見て、外気に触れる機会を作り、外気に慣らしていく ・食欲、睡眠、排泄等一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、安心して機嫌よく過ごせるようにする ・着替えやおむつ交換等、体の健康や清潔を保ち、快の感覚（気持ちよさ）を育てる ・睡眠中はうつ伏せにしないように体位変換し、寝具の掛け方や、呼吸、顔色、嘔吐の有無等、睡眠状態をきめ細かく観察し、窒息等の事故を予防する ・避難訓練の際には、不安感を与えないようにしながら、抱っこ等で避難し、安全を確保する

(3か月頃 ～ 6か月頃)

ねらい	○身近な人にあやされたり、声をかけられたりすると喜び、自分でも声を出す ○特定の大人に親しみや安心感をもち、安定した気持ちで過ごす ○飲む、寝る、遊ぶなど安定したリズムで機嫌よく過ごす	
	発達のためやす （ 3か月頃～ 6か月頃 ）	
子どもの育ち	知	○唇を閉じて、音が出せるようになり、喃語が始める ○快、不快を感じると、表情や泣き声で表す ○身近な人の顔が分かる ○周囲の物に関心をもち、手を伸ばして触れようとしたり、手に持ってなめたりする ○聴き慣れた声や音、音楽に反応し、微笑んだり手足を動かしたりする
	徳	○自分から相手に微笑みかけるようになる ○泣いていても、保育者があやすと安心して泣き止む ○周囲にいる大人が分かるようになり、初期の人見知りが始まる
	体	○腹ばいになると肘で上半身を支えることから、徐々に手のひらで上半身を支えるようになる ○足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする ○引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せられるようになる ○親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる ○手と目の協応が始まり、見た物に手を伸ばすようになる ○体温は安定し始めるが、周りの気温変化の影響を受けやすい ○眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別がつき始めてリズムが定まってくる ○胃の入口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる ○舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む ○よだれが出始める ○母乳やミルク以外の味（スープや果汁）を、スプーンで少しずつ口にする（5～6か月） ○味覚が芽生え、味の違いが分かり始める（5～6か月）
経験させたい主な活動	・体調や天候を考慮しながら戸外へ出て外の環境に触れる ・保育者と一緒にふれあい遊びをする（赤ちゃん体操、くすぐり遊び、ベビーマッサージ） ・鮮やかな色彩の玩具、音の出る玩具、握りこむ玩具を持つ ・仰向けや腹ばい、一人座り等の姿勢で遊ぶ	

<家庭との連携>

- ・子どもの家庭状況に合わせながら、安定した睡眠、食事、運動の生活リズムをつくっていきけるように家庭と連携していく。
- ・体調の変化を見逃さず、適切に対応するとともに、疾病への対応や予防法等、保護者に知らせる。
- ・睡眠時のうつ伏せ寝や寝具の掛け方等に気を付け、窒息等の事故を予防し、睡眠時間を一定にすることの大切さを知らせる。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・子どもの表情や動きに対して、保育者が意図的に、ゆっくりした声かけ、笑顔での働きかけをすることで、情緒の安定や人や周囲への関心を育んでいくようにする ・素材、大きさ、形、色、音質等、子どもの発達に適した玩具を用意し、遊びを通して様々な感覚を育んでいくようにする ・わらべうたやふれあい遊びを一緒に楽しみ、繰り返すことで、心地よい音を感じることができるようになる
	徳の視点から	・目覚めたときは、穏やかに話しかけるなど、「目覚め」を快いものにしていく ・優しい言葉、声、笑顔での働きかけ等を通して、情緒の安定や人との心地よい関わり、周囲への関心を育んでいくようにする ・特定の保育者が、一人ひとりの出すサインや表情を見逃さず受け止め、優しい言葉や笑顔で、応答的に丁寧に関わり、信頼関係を築くようにする
	体の視点から	・子どもの状態に合わせて、腹ばいの姿勢を安定させたり、寝返ろうとするときに手を添えて援助したりするなど運動機能の発達を促す ・物を追視したり、玩具をつかんだり、なめたりなどの感覚の働きを豊かにするような遊びが、十分にできるような環境を整える ・食欲、睡眠、排泄等生理的欲求を満たし、一人ひとりの生活リズムを大切にしながら安心して機嫌よく過ごせるようにしていく ・着替えやおむつ交換等、体の衛生を保ち、快の感覚(気持ちよさ)を育てる ・睡眠中は、うつ伏せにしないように体位変換し、寝具の掛け方や、呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態をきめ細かく観察し、窒息等の事故を予防する ・自分で動くようになるので、寝返って落ちないようにするとともに、何でも口に入れ始めるので口に入るような小さい物等、危険につながる物をそばに置かないようにする ・避難訓練の際には、不安感を与えないようにしながら、抱っこ等で避難し、安全を確保する ・離乳食は、1さじから始め、便、体調、飲み込みの様子を見ながら、無理のないように進める(5～6か月)

0歳児カリキュラム

(6か月頃 ~ 9か月頃)

1 0歳児・1歳児カリキュラム

0歳児カリキュラム(6か月頃~9か月頃)

ねらい	○保育者の話しかけを喜び、喃語を発することを楽しむ ○保育者に十分関わってもらい、安心して過ごす ○寝返りをする、はう、座るなど体を動かして遊ぶ ○いろいろな食品の味や形態、スプーンに慣れる
発達をめやす (6か月頃 ~ 9か月頃)	
子どもの育ち	知 ○言われていることがだんだんと理解できるようになってくる ○「アバババ」「マンマンマ」等、反復的な喃語を発する ○大人の口元をじっと見る ○名前を呼ばれると振り向く ○物を落とすなど、気に入ったことを繰り返す ○引き出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ ○機嫌がよいと一人遊びをする ○周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする ○戸外に出ることを喜ぶ ○音楽を聴いて、心地よさを感じる
	徳 ○親しい人とそうでない人の区別をする ○「バイバイ」、「いないいないばあ」等の動作をまねる ○要求があると声をあげる ○人見知りをしたり後追いをしたりする ○人の動きを目で追う
	体 ○背中を反らして手足を上げる (グライダーポーズ) ○うつ伏せの状態ですてえ爪先を使って床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する (ピボットターン) ○寝返り、ずりばいでの移動からはいはい、つかまり立ちをする ○お座りが安定する ○支えて立たせると足を踏ん張る ○指先で物をつかんだり、手を打ち合わせたり、持った物を持ち替えたりする ○午前と午後、だいたい同じ時間に寝起きをするようになる ○大人が支ええるとコップで飲めるようになる ○離乳食をスプーンで食べさせてもらおうと、舌を使ってつぶして食べる
経験させたい主な活動	・握りやすい玩具 (タオル人形、布ボール等)、音が出る玩具で遊ぶ ・絵本に触れる (動物や乗り物、食べ物等、写真や具体物が描かれているもの) ・揺さぶり遊びやふれあい遊びなどを保育者と一緒にする ・ずりばいやはいはいを十分に行う ・戸外へ出て、外の空気や匂い、風に触れる

＜家庭との連携＞

- ・子育てについての不安や悩みは一人ひとり違うことを理解し、保護者の思いに寄り添いながら、それぞれに応じた配慮や支援を行う。
- ・子どもの状態や生活の様子をお互いに伝え合い、連携して子育てを進めていく。
- ・離乳食を進めるにあたり、子どもの状況に合わせながら家庭でいろいろな食材を試してもらい、アレルギー反応がないことを確認するよう依頼する。
- ・感染症など子どもがかかりやすい病気について知らせ、感染予防や罹患したときの具体的な対応を伝える。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・保育者が話しかけるとともに、子どもが喃語を発したときに、受け止め応答的に関わり、発語を促していく ・遊びや生活を通して、具体的に身の回りの物の名前、動作等を語りかけていく ・身近に絵本を用意し、保育者と一緒に見る経験を繰り返す事で、絵本への興味を膨らませる ・興味を引く玩具などを準備し、手を伸ばして触れたいという意欲や好奇心を育む ・いろいろな色、感触、動きの物に触れたり、心地よい音や音楽を聴いたりする環境を用意し、視覚、聴覚、触覚を刺激する
	徳の視点から	・同じ保育者が関わることで、特定の大人との愛着関係を築き、安心して過ごせるようにする 事例1 ・人見知りや後追いなどで、子どもが不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて安心感がもてるようにする
	体の視点から	・寝返りやずりばい、四つばいを十分にできる環境を整え、危険のないように安全面についての点検、確認を行う ・一人ひとりの家庭での様子、健康状態に合わせて睡眠をとり、安定した生活リズムをつくっていく ・おむつが汚れていたら、優しく言葉をかけながら交換する ・睡眠中は、うつ伏せにしないよう体位変換し、寝具の掛け方や、呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態をきめ細かく観察し、窒息等の事故を予防する ・避難訓練の際には、不安感を与えないようにしながら、抱っこ・おんぶ・避難車等で避難し、安全を確保する ・一人ひとりの様子に合わせて離乳食を進め、いろいろな食べ物の味、調理形態に慣れるようにする ・自分で食べたいという意欲がもてるように、手づかみで食べようとするを見守り、「おいしいね」などの言葉をかけていく

(9か月頃 ~ 12か月頃)

ねらい	○身近な人や物に興味をもち、探索活動を楽しむ ○指さしや発声で要求を伝える ○保育者との安定した関わりをもとに、周りの大人や友達に興味をもつ ○はいはい、伝い歩き、つかまり立ち等、移動活動を十分楽しむ ○離乳食が進み、自分で食べようとする	
	発達のめやす (9か月頃~12か月頃)	
子どもの育ち	知	○「マーマー」「ダーダー」「マンマ」等、反復的な言葉を発する ○要求の指さしや発声が見られる ○「いないいないばあ」をして、見えなくなった大人が出てくるのを期待する ○物をつかんだり、引っ張ったり、容器に出し入れしたりする ○物を打ち合わせたり積んだりする ○物を布などで隠すと中身を確認しようとする ○自他を区別できるようになる ○自分でやってみたい気持ちが芽生える ○絵本を保育者と一緒に見て、身近な物を見つけ喜ぶ ○親しみのある音楽を聴き、体を動かして楽しさや喜びを表現する
	徳	○相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする ○相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする ○他の子どもが持っている物を触ったり、相手に物を渡そうとしたりする ○いやいやをしたり、バイバイをしたりする ○褒めてもらおうと喜んだり、行動を止められることが分かるようになったりする
	体	○手で持つ、渡す、投げる、置くなどをする ○つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたり、物から手を放して一人で立ったりする ○四つばい、高ばい、お座り、つかまり立ちなど自由に姿勢を変える ○睡眠のリズムが安定し、午後の1回寝に移行していく ○手づかみで食べようとする ○コップを両手で持って飲もうとしたり、大人がスプーンを持つ手に、手を添えたりする
経験させたい主な活動	・はいはい、高ばいを十分に行う（トンネル、坂、階段等） ・模倣遊びをする（「いないいないばあ」等） ・まてまて遊びを保育者とする（追いかっこ） ・手指を使う玩具で遊ぶ（ポットン落とし、ガラガラ、積み木等） ・絵本を保育者に読んでもらったり、自分で開いたりする ・体を動かして遊ぶ（手遊び・歌・体操・リズム遊び等） ・探索活動、戸外遊び、感触遊びを楽しむ	

<家庭との連携>

- ・子どもの発声や指さしに気づき応答することが、子どもの言葉を育むことを伝える。
- ・はいはい等の経験を十分行う大切さを知らせる。
- ・子どもの日々の変化を伝え合い、成長の喜びを共感する。
- ・子どもの育ちは一人ひとり違うことを知らせ、保護者の思いに寄り添い、それぞれに応じた配慮や支援を行う。
- ・家庭・保育所で身体的な発達や、食事の様子を伝え合いながら離乳食を進める。
- ・探索活動や体の動きが活発になるので、動いてもひっかかりにくい伸縮性のある衣類を使用したり、事故の予防のため、安全について知らせたりする。
- ・感染症や予防接種の情報を知らせ、感染予防や罹患したときの具体的な対応を伝える。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・子どもの発語や指さしの意味を理解し、言葉で共感する ・身近な物の名称や、動作を言葉にして伝えていく ・保育者が先回りせず、指さし等子どもからの要求を待ち、意志や要求が高まるようにする ・子どもが触りたい、遊びたい、試したいと意欲がもてるような玩具を用意する ・絵本への興味がもてるような環境を用意し、自分で手にしたり保育者に読んでもらったりする ・素材に触れ、感触を楽しめるようにする。（紙・砂・土・水・布等） ・つかむ、引っ張る、はがすなど手指を使って遊べる環境を整える ・用具（水性ペン等）を握ってかく環境を用意し、経験させる（点々や往復運動） ・音楽に合わせて保育者が体を動かすことを見せ、真似をしながら体を動かす楽しさを知らせる
	徳の視点から	・保育者の語りかけや、働きかけで気持ちの共感ができるように応答的に関わる ・身近にいる他児に興味・関心がもてるように名前を呼んだり、日々の生活を共にしたりしながら他児の存在を知らせていく 事例2 ・日常の挨拶や物が欲しいときなど「ちょうだい」「どうぞ」「ありがとう」などの言葉を保育者が一緒に言いながらやり取りし、他児と関わる機会を作っていく
	体の視点から	・はいはい、高ばい、つかまり立ち、伝い歩き等、移動運動が十分できるよう環境を整える ・生活リズムを整え、一定時間安定して眠れるようにする ・こぼしながらも自分で食べる意欲がもてるように見守ったり言葉をかけたりする ・「かみかみごっくん」と言いながら大人が口を動かし見せるなど、具体的な方法を知らせる ・一人ひとりの排尿感覚を把握し、おむつが汚れたら優しく言葉をかけながら交換し、心地よさを感じられるようにする ・睡眠中は、うつ伏せにしないように体位変換し、寝具の掛け方や、呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態をきめ細かく観察し、窒息等の事故を予防する ・探索活動や体の動きが活発になるので、事故の予防のために安全面に気を付ける ・おもちゃの消毒を定期的に行い、衛生面に気を付ける ・避難訓練の際には、不安感を与えないようにしながら、抱っこ・おんぶ・避難車等で避難し安全を確保する

(1歳頃 ～ 1歳3か月頃)

ねらい	○簡単な言葉や動作のやり取りを楽しむ ○空腹を感じて食事をしたり、眠くなって午睡をとったりするなど、欲求が満たされて満足する ○体を動かして遊ぶ楽しさや、探索する楽しさを十分に味わう	
	発達のためやす (1歳頃～ 1歳3か月頃)	
子どもの育ち	知	○簡単な言葉と動作が結びつくようになる ○欲しい物があると、「ちょうだい」としぐさや言葉で表す ○小さい物を拾って穴に入れるなど、目と手を協応させた細かい動きができるようになってくる ○2～3個の積み木を積む ○小さな物を見つけると触ってみようとする ○玉通し、型落としをしようとする ○物を出したり、入れたりすることを喜ぶ(ティッシュペーパーを出し入れするなど) ○保育者のすることに興味をもったり真似たりする ○音楽に合わせて体を動かす
	徳	○いつも一緒にいる保育者に甘えたり、思い通りにならないと泣いて助けを求めたりする ○保育者の反応を楽しみながら、物を介してのやり取りを何度も繰り返す ○自分の誕生日を祝ってもらう喜びを感じる
	体	○つかまり立ち、伝い歩きをしたり、はいはいで階段の上り下りをしたりする ○一人で立てるようになり、何度も繰り返す ○自分で1歩を踏み出してみたり、両手を上げて、2、3歩歩いたりする ○手の指が細かく動くようになり、親指と人差し指でつまめるようになる ○午睡は1日1回となり、睡眠のリズムが安定し、一定時間ぐっすり眠る ○「かみかみごっくん」が上手になり、完了食になる。 ○スプーンやフォークを使って、保育者に手伝ってもらったり自分で食べようとしたりする ○助けられながら、自分でコップを持って飲む
経験させたい主な活動	・基本的な運動機能の発達を促すために、全身を使う遊びをする(箱に入ったり、出たりを繰り返す・大箱を押して歩く・まてまて遊び・階段をはって上り下り・遊具を引いて歩く) ・手指の機能を高めるために、手指を使った遊びをする(シールはがし・積み木を積む・ティッシュペーパーを出し入れする・絵本をめくる・コップ重ね・型はめ・ポットン落とし・なぐりがき) ・感触遊びを楽しむ(砂・水・紙) ・布の動きを楽しむ ・人形遊びをする ・絵カード・絵本を使って絵に注目する	

＜家庭との連携＞

- ・伝い歩きや一人歩きをし始めるので、転倒に気を付けながら、動く楽しさや探索する楽しさを十分に味わうことの大切さを伝える。
- ・身体発育や運動機能の発育には、個人差があることを知らせ、特に歩行に関して敏感になることのないように子どもの状況に合わせて、焦らず、優しく接し、安心して過ごせるような関わりが大事であることを伝える。
- ・歩行にスムーズに移行できるように、はいはいを十分できる環境や機会を保障してもらう。
- ・離乳食の移行の際は、初めて食べる食材を家で試してもらい、状況を伝えてもらうとともに、咀嚼や飲み込みの状態を確認しながら完了食へ移行していくようにする。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・子どもの指さしや自己表現を受け止め、共感して言葉で伝える ・探索が楽しめるような玩具などを用意し、興味、関心を広げる ・子どもの自発的な活動を大切にしながら、保育者がしてみせるなど、一緒に関わって遊ぶ 事例3
	徳の視点から	・一人ひとりのペースで好きな玩具や遊びが見つけられるようにゆったりと関わり、気持ちや行動を受け止める ・保育者や友達に親しみの気持ちがもてるように、一緒に関わって遊ぶ機会をつくる ・一人ひとりの状態を把握し、大人が先回りし過ぎずに待ち、子どもが自分の意思を表す機会を大事にする ・できたことを一緒に喜び、満足感や意欲を引き出していく ・子どもの発見や驚きを保育者も一緒に受け止め、共感していく ・自分の誕生日をたくさんの人に祝ってもらうことで、愛されているという自尊感情につなげる
	体の視点から	・身体発育や運動機能の発達には、個人差が大きいことを考慮に入れ、一人ひとりの状況を把握し、個々に応じた発達を促す環境や機会をつくっていく ・手指の機能を高めるために、つまんだり容器から出し入れしたりして楽しめるものを用意する ・安全面に気を付け、事故の予防に努める ・睡眠中は、うつ伏せにならないように体位変換し、寝具の掛け方や呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態を常に観察し、記録するなどして窒息等の事故を予防する ・こぼしながらも一人でスプーンや、手づかみで食べる意欲を引き出すような言葉をかける 事例4

(1歳3か月頃 ～ 1歳6か月頃)

ねらい	○いろいろな自然物に触れ、五感を十分に働かせて遊ぶ ○一人ひとりの欲求を十分に満たしてもらうことで、満足感を味わう ○身近な物への興味、関心をもち、探索活動を十分に楽しむ
	発達のためやす (1歳3か月頃～ 1歳6か月頃)
子どもの育ち	知 ○物の名前を覚え始め、片言が盛んになる ○語尾を真似たり、「ちょうだい」と言われて応えて差し出したりする ○自分の名前や友達の名前が分かってくる ○四足動物は「ワンワン」、乗り物は「ブーブ」、食べ物「マンマ」等、共通する特徴をもつグループの名称としての言葉が出てくる ○「ワンワンは、どれ？」等と聞かれると自分の気に入った物を指さして答えることが多いが、聞かれた物を視線で捉えることもし始める ○積み木を3個以上積むことができるようになる ○行動範囲とともに興味が広がり、探索活動が盛んになる ○両手で遊具を持ち、打ち鳴らす ○歌に合わせて手をたたいたり、保育者の真似をしたりしながらよく聞く歌と一緒に歌おうとする ○お気に入りの絵本や、お気に入りのページを何度も読んで欲しいがる
	徳 ○保育者と一緒にふれあい遊びをすることを喜ぶ ○自分が普段してもらっていることを人形やぬいぐるみを使って再現遊びをする (両手で布を広げて人形にかけける・人形を寝かしつける) ○自己の要求が高まり、簡単な言葉や指さし、しぐさで表す姿が見られる ○自分の思い通りにならなかったり、自分の欲しい玩具を他の子どもが使っていたりしたときに、要求の衝突が起こる ○泣いている子どもがいると、顔をのぞき込んだり、頭をなでたりする
	体 ○基本的な運動機能が発達する (歩く、押す、走る、跳ぶ、しゃがむ、登る、後ずさりをする、つま先立ちをするなど) ○転がったボールを追いかける ○体の向きの転換ができるようになり、滑り台では、お腹をつけて足から滑る ○階段を手すりにつかまって、1段ずつ足を揃えて上る ○物をよけて回り込んだり方向転換したりして、行きたい場所に行くことができる ○左右の手を協調して動かす ○自分で食べようという意欲が芽生える ○こぼすことも多いが、コップを持って飲めるようになる ○上手握りでスプーンやフォークを持って自分で食べようとする ○オムツではあるが、排泄した後で動作や表情で表す ○ズボンに足を入れたら立ち上がって引っ張るなど、自分でしようとする気持ちが芽生える

経験させたい主な活動

- ・基本的な運動機能の発達を促すために、全身を使って遊ぶ（まてまて遊び、手押し車、滑り台、ボール遊び等）
- ・手指を使った遊びを通して手指の機能を高める（型はめ、ポットン落とし、シール貼り、積み木、なぐりがき、スコップで砂をすくったり入れたりするなど）
- ・感触遊びを楽しむ（砂・水・紙）
- ・保育者と一緒に歌ったり、音の出る玩具を鳴らしたりして遊ぶ
- ・手遊びやふれあい遊びを楽しむ
- ・興味のある絵本を保育者と一緒に楽しむ
- ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊びや探索活動をする

<家庭との連携>

- ・行動範囲の広がりとともに、探索活動が盛んになる時期であることやその意味を伝え、安全には十分に配慮しながら、子どもの興味や関心を見守り、子どもの発見に共感したり言葉を添えたりする大切さを知らせていく。
- ・子どもと一緒に食事をする中で、興味をもたせたり、食べ方を見せたりすることの大切さを知らせる。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・安心できる保育者と一緒に関わって遊ぶことで、楽しさを共感し、「やりたいな」という気持ちを引き出せるようにする 事例5 ・喃語や片言の意味を理解し、話すことが楽しいと思えるように関わる ・簡単な言葉の繰り返しのある絵本を選ぶ ・言葉の発達を促すために、子どもの気持ちをゆったりと受け止め、思いを代弁したり共感したりして応答的に関わる ・季節の歌や簡単な歌を毎日繰り返し、一緒に歌う ・いろいろな素材に触れる機会をつくり、環境を整え、感触を十分に楽しめるようにする
	徳の視点から	・子どもの不安や要求に気付き、十分に受け止め、スキンシップや言葉がけ等を通して保育者との愛着関係を築いていけるようにする ・子どもの意欲をそぐことのないよう、十分な数の玩具やスペースを準備したり、保育者が言葉や動作を添えながら関わり方を知らせたりする ・自分でしようとしているときや熱中しているときには温かく見守る。また、子どもの発想や驚きを見逃さず受け止め共感する
	体の視点から	・興味をもって楽しめるような玩具をそろえたり、落ち着いて遊べる環境を整えたりする ・着替えや排泄等、身の回りのことを保育者の世話を必要としながらも、子どものやりたいという気持ちを十分に受け止める 事例6 ・自分で食べようとする気持ちを大切にしながら、スプーンの持ち方を確認し、使い方を知らせていく ・個々の排泄の間隔を把握し、トイレに誘いかける ・安全に配慮し、子どものやりたい気持ちに寄り添いながら、探索活動や遊び等が十分できるような環境を整える ・睡眠中は、うつ伏せにならないように体位変換し、寝具の掛け方や呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態を常に観察し、記録するなどして窒息等の事故を予防する

(1歳6か月頃 ～ 1歳9か月頃)

ねらい

- 一人遊びを楽しむ中で、周囲の物に関心をもち、いろいろな物に触れて遊ぶ
- 保育者に甘えたり、「自分で！」の気持ちを十分に受け止めてもらったりして、安心感や信頼感をもち
- 変化のある道を歩いたり、斜面を登ったりしながら全身を使って遊ぶ

発達のためやす (1歳6か月頃～ 1歳9か月頃)

知

- 発語が盛んになる
- 保育者の言葉を聞いて繰り返したり、語尾を真似たりする
- 保育者の簡単な言葉がけや指示が分かるようになる
- 表情やしぐさを模倣する
- 積み木や箱を車や電車に見立てて遊ぶ
- カップに砂を入れたり出したりして遊ぶ
- 自分の手に合った容器のふたの開閉をしようとする
- 絵本のページを1枚ずつめくる
- 粘土や紙をちぎったり丸めたりする
- 水、砂、紙などいろいろな素材に触れることを喜ぶ
- 左右に大きく手を動かし、線をかいたり紙いっぱいにくるぐるとかいたりする

子どもの育ち

徳

- 信頼できる大人とふれあい遊びをする
- 保育者を相手に「どうぞ」「ありがとう」などとやり取りをする
- 名前を呼ばれると「はい」と応える
- 欲しい物があると「ちょうだい」と言いながら、もらいにいこうとする
- 自分でできないときは、指さしたり、助けを求めたりして保育者に伝えようとする
- 「待っててね」と言われると、少しの間待つようになる
- 遊んだ後の玩具を保育者と一緒に決まった場所に片付けることができるようになる
- 友達が同じような玩具を使っていると取り合いになることがある

体

- ボールを両手で持って投げたり転がしたりして遊ぶ
- 歩き方が速くなり、歩行での転倒が少なくなる
- 股のぞきができるようになる
- くぐったりまたいだりして遊ぶ
- 滑り台を滑る
- 水道の蛇口をひねる
- 箱を動かす
- こぼしながらも、スプーンを使って自分で食べようとしたり、コップを持って自分で飲もうとしたりする
- オマルや便器に座ることに慣れる
- 排泄したときに、表情やしぐさで知らせようとする
- パンツ、ズボンを自分で脱ごうとする

経験させたい主な活動

- ・全身を使い、運動機能の発達を促す遊びを十分に行う（まてまて遊び・つま先立ち・背伸びをして体全体を伸ばす・ひもを引っ張る・ひっかける・斜面階段の上り下り・その場ジャンプ）
- ・手指を使う遊びを十分に行う（型はめ・ボタン通し・シール貼り・なぐりがき・容器のふたの開け閉め・フックに物を掛けたり、外したりする）
- ・保育者や友達と一緒に歌ったり、音楽を聴きながら音の出る玩具を鳴らしたりして遊ぶ
- ・身近な動物や食べ物、乗り物が出てきたり、言葉のやり取り等、繰り返しのある絵本を見る
- ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊びや探索活動をする

<家庭との連携>

- ・やりたい気持ちや言葉を引き出すために、大人と一緒に遊びながら共感したり、言葉を添えたりする大切さを知らせる。
- ・好奇心旺盛で何でもやってみたい時期なので、目を離さず、身の回りの安全に十分気を配っていくことを伝える。
- ・おむつが濡れていないときはトイレに誘い、便器に座る経験を、少しずつ重ねていけるように伝える。

教育的意図をもった働きかけ

知の視点から

- ・全身を使った遊びや手指を使った遊び等で、子どもの自発的な活動を大切にしながら保育者がして見せるなど、一緒に関わって遊ぶようにする **事例7**
- ・言葉の発達を促すために、子どもの気持ちをゆったりと受け止め、思いを代弁したり、共感したりして応答的に関わる
- ・自然物にたくさん触れ、五感を十分に働かせる経験を重ねる
- ・一人遊びが十分できるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物、時間の保障をする
- ・興味、関心をもって、探索活動や遊びなどが十分できるような環境を整える
- ・気持ちを十分に発散しながら自由にかけるような環境をつくる

徳の視点から

- ・保育者とやり取りをしながら、友達との関わり方を知らせていく
- ・友達への興味・関心がもてるように、一緒に遊ぶ機会をつくる
- ・自分でしようとする気持ちを十分に受け止め、見守ったり励ましたりしていく **事例8**
- ・子どもの意欲をそぐことのないよう、十分な玩具やスペースを準備したり、保育者が言葉や動作を添えながら関わり方を知らせたりする

体の視点から

- ・押す、引っ張る、転がすなどの全身運動やつまむ、ちぎる、たたく、握るなど手指を使う遊びを十分に体験できるようにする
- ・一人ひとりの生活リズムに合わせ、生活習慣を身に付けていけるようにする
- ・歩行の発達に伴い行動範囲が広がり、予測できない行動が多くなるが、室内の安全点検を行うなど、安全への対応を十分に行う
- ・身体発育や運動機能の発達には、個人差が大きいことを考慮し、一人ひとりの状況を把握する
- ・睡眠中は、うつ伏せにならないように体位変換し、寝具の掛け方や呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態を常に観察し、記録するなどして窒息等の事故を予防する

(1歳9か月頃 ～ 2歳頃)

ねらい

- 自分の思いや気持ちを言葉に置き換えてもらいながら、気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じる
- 保育者に自分の気持ちを安心して表し、受け止めてもらえる心地よさを感じる
- 一人ひとりの手・足・全身の運動機能の発達に応じた運動遊びを十分に楽しむ

発達のためやす (1歳9か月頃～ 2歳頃)

知

- 語彙が増え、二語文を話すようになる
- 大人の言ったことや言葉の調子をそのまま真似ようとする
- 保育者や友達の名前を言うようになる
- 身の回りの物に名前が付いていることが分かってくる
- いろいろな素材や玩具などを実物に見立てるようになる
- 物を容器に集める (かばん・入れ物・ボウル等)
- 小さな積み木を積み上げようとする
- 指を使う操作活動 (つまむ、めくる・はる・はがす・開ける・通す・ねじる・ちぎる・なぐりがき等) が多様になる。

子どもの育ち

徳

- 身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけ「自分でしたい」という欲求を出す
- 大人に追いかけられることを好み、後ろを振り返りながら喜んで逃げる
- 大人と手をつないだり、子ども同士でも手をつないだりする
- 友達の仕草や行動を真似て同じように楽しもうとする
- 自我が芽生え、保育者の促しに「いや」「だめ」と拒否をするようになる
- 友達の持ち物が分かり、友達に帽子や靴等を渡そうとする
- 自分の意思をはっきりと示すようになり、物の取り合いなどが生じるようになる

体

- 歩行が安定し、長い距離を歩けるようになる
- 一定時間、午睡をする
- その場で跳ぶことができる
- 手すりや横の壁につかまりながら一段ずつ、時には足を交互に出して階段を上がる
- 斜面や段差の上り下りをする
- しゃがんで遊ぶ
- ボールを蹴る
- 排尿の間隔が長くなり、促すと便器で排尿し、排泄前後に動作や言葉で知らせようとする
- 衣服の着脱に興味をもち、自分でし始める
- こぼしながらもスプーンを使いながら、ほとんど自分で食べようとする

経験させたい主な活動

- ・全身を使う遊びを楽しむ（まてまて遊び・斜面や階段・段差の上り下り・その場ジャンプ・はしご状の遊具を渡る・大箱を押して歩く・大きめの遊具を引っ張って歩く・乗り越える・くぐる）
- ・手指を使う遊びを通して、手指の機能を高める（丸、四角、三角、長四角の型はめ・ポットン落とし・洗濯バサミ・ひも通し・シールはがし・シール貼り・入れる・出す・なぐりがき等）
- ・感触遊びを楽しむ（砂・水・紙・土等）
- ・友達と一緒に歌ったり、音楽を聴いて音の出る玩具を鳴らしたりして遊ぶ
- ・興味のある絵本を見る
- ・手遊びやふれあい遊び、わらべうた遊び、体操等をして遊ぶ
- ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊び、生活再現遊びをする（料理の再現・人形遊び等）

<家庭との連携>

- ・子どもの成長の表れとして拒否の言葉が多くなるが、子ども自身が選んで決められるように「どうしたいのかな?」「どっちがいいのかな?」など聞きながら、待つことも方法の一つであるなど、具体的な方法を伝えていく。
- ・片言の話に応答したり会話したりすることが、言葉の獲得や気持ちの共有になっていくことの大切さを伝える。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・指さしや身ぶり、片言で言おうとしていることを受け止め、言葉にして返し、子どもが気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じられるようにする 事例9 ・気持ちを表現できるように、思いを代弁したり共感したりして応答的に関わる ・保育者が言葉や動作を添えながらやり取りを促していく 事例10 ・生活や遊びを通して、身の回りの物の名前や動作などを伝えていく ・いろいろな遊びに意欲をもつことができるように、一人ひとりの発達や好きな遊びを理解し、個々に合わせた丁寧な関わりをする ・見る、聞く、触るなどの経験を通し、感覚の働きを豊かにする
	徳の視点から	・子どものやりたいという気持ちを十分に受け止めながら、一人ひとりに合った援助をしていく ・友達のことを意識したり、気にかけてたりできるように、一緒に遊ぶ機会をつくる ・友達に親しみがもてるような、言葉がけや仲立ちをする 事例9 ・安心して気持ちを出せるように、子どもの要求や欲求をしっかり受け止める ・物の取り扱いによって子どもの意欲をそぐことがないように、十分な玩具やスペースを準備したり、保育者が言葉や動作を添えたりしながら関わり方を知らせていく
	体の視点から	・一人ひとりの発達を把握し、斜面や段差を登る、でこぼこ道を歩く、バランスをとるなどそれに合った運動遊びを経験することで、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする 事例11 ・生活習慣を身に付けるために手順を一定にし、一緒にしたり、自分でできるように言葉をかけたりする ・排泄時は、保育者がそばにつき、成功したときはしっかりと褒めて自信につなげていく ・自分で布団に入り心地よく眠れるように布団の場所を固定し、眠りやすい環境をつくる ・個々の食事状況を見て、スプーンやフォークの持ち方を知らせ、自分で食べようとする意欲を育む ・睡眠中は、うつ伏せにならないように体位変換し、寝具の掛け方や呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態を常に観察し、記録するなどして窒息等の事故を予防する

ねらい	○大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむ ○保育者と一緒に、身の回りのことを自分でしようとする ○体を動かすことを十分に楽しみ、全身運動を滑らかにする
発達のためやす (2歳頃~2歳6か月頃)	
子どもの育ち	知 ○「ちょうだい」「もういっかい」などの要求を表す言葉を使うようになる ○「おはよう」「さようなら」など生活に必要な挨拶をするようになる ○絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ ○積み木やブロックを積んだり、並べたりつないだりして、何かに見立てて遊ぶ ○クレパスやマーカーでぐるぐると曲線にかく ○知っている歌や手遊びを保育者と一緒に楽しんだり、音楽に合わせて体を動かしたりして遊ぶ ○身近な生き物や草花に興味をもち、見たり触れたりする
	徳 ○「自分で」と自己主張をし、いろいろなことを自分でしようとする ○保育者との信頼関係を深め、自分のしたいことやして欲しいこと、伝えたいことなど自分の気持ちを十分出し、受け入れられると気持ちがよいことを知る ○思い通りにならないときは、気持ちがコントロールできず頑固な行動をとったりする ○遊んだ後に、保育者と一緒にもとの場所に戻そうとする ○友達のしている遊びに興味をもち、真似たり同じ事をしたりする ○自分のロッカーや靴箱など自分の物の置き場所が分かり、自分の物と人の物を区別して扱う ○「待っててね」の意味が分かり、言葉がけで少し待つ ○保育者の言葉がけで危ないことやしてはいけないことを知ろうとする
	体 ○体を動かして好きな遊びを楽しむ ○手や指先を使う遊びに興味をもってしようとする ○砂や泥の感触を楽しむ ○スプーンやフォークを使って一人で食べようとする ○排泄をしぐさや言葉で知らせたり、促されて便器で排泄したりする ○保育者に援助されながら着脱や昼寝をしようとする ○手洗いの仕方を知り、保育者と一緒にする

経験させたい主な活動

- ・全身を使う遊びを楽しむ（三輪車―地面を蹴って進む、追いかっこ、遊具にのぼる、両足ジャンプ、箱でつくった橋を渡る、ボールを投げる・蹴る・追う）
- ・手指を使う遊びをする（積み木を並べる、高く積む、ボタン付け、ひも通し、ペグさし、粘土）
- ・感触遊びを楽しむ（砂、土、水）
- ・歌を真似て歌う
- ・リズムにのって体を動かしたり、体操をしたりする
- ・園所庭を探索する（葉っぱや石を集める、生き物の観察、砂を葉や花で飾る）
- ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊び、生活再現遊びをする

<家庭との連携>

- ・二語文を話すようになり、おしゃべりが盛んになってくるが、この時期は言語面でも個人差が大きく、まだあまりしゃべらない子どももいるため、大人が話しかけることの大切さや、具体物を対応させながら話をするなど、どのように関わったらよいかを知らせていく。
- ・何でもいやいやと泣くなど、子どもとどう関わったらよいかと悩むことが多くなる時期なので、子どもの気持ちの揺れも成長の過程であることを知らせ、子どもが気持ちを立て直せるように代弁するなど、優しく見守って待つことの大切さを知らせていく。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・子どもの感じていることを簡単な言葉にして表したり、やり取りを楽しめるように言葉を使ったりする ・挨拶等、生活に必要な言葉を使う機会を捉え、その都度丁寧に伝えていく ・言葉の繰り返しや言い回しのおもしろさがある絵本を用意し、興味をもてるようにする ・一人ひとりが自分の好きな遊びを見つけ、その遊びをじっくり楽しめるような環境を整える ・保育者がやって見せるなど一緒に関わって遊ぶ中で、子どもの好奇心を育む ・身近な自然に関わる場面を捉え、発見や驚きを伝えていく
	徳の視点から	・安心して自分の思いを出せるように、子どもの気持ちに寄り添い受け止める ・保育者が仲立ちとなり、子ども同士の関わりを広げていく ・子どもの思いや気持ちなどを簡単な言葉にして伝える ・思い通りにならず、気持ちが立て直せないときは、保育者が代弁し優しく見守って待つ ・遊具の片付ける場所を分かりやすく表示することで、自分で片付けようとする気持ちがもてるようにする ・自分でしようとする気持ちを受け止めながら、必要に応じて適切な手助けをする ・危険なことや、してはいけないことは理由を話し、繰り返し伝えていく
	体の視点から	・やってみたくなるような環境（遊具等）を準備し、繰り返し遊べるようにする ・体操やふれあい遊び、リズム遊びなどを保育者が一緒に遊ぶことで、体を動かす遊びの楽しさを知らせる ・食事、排泄、睡眠など安心して生活できるように保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気づくりをする ・避難訓練では、子どもが安心して避難できるように不安な気持ちを受け止める ・睡眠中は、うつ伏せにならないように体位変換し、寝具の掛け方や呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態を常に観察し、記録するなどして窒息等の事故を予防する

ねらい	○身の回りのいろいろなものに興味や関心をもち、やってみたい、使ってみたいという意欲をもつ ○友達のしていることに興味をもち、保育者の仲立ちで友達と遊ぶ楽しさを感じる ○いろいろな遊具や用具を使って体を十分動かすことを楽しむ	
	発達のためやす (2歳6か月頃～)	
子どもの育ち	知	○保育者や友達の名前を覚えたり、生活や遊びに必要な言葉を知ったりし、使おうとする ○おしゃべりが盛んになり、自分の経験したことや気持ちを自分なりに周りに伝えようとする ○簡単なストーリーのある絵本や紙芝居を楽しんで見る ○生活や遊びの中で、簡単な物の形、色(赤、青、黄)、数、大小に興味をもつ ○形の違いが分かるようになり、パズルや型はめ、絵合わせを一人で完成させようとする ○クレパスやマーカーでかいたものに、自分なりに「くるま」「かお」と意味づけをする
	徳	○友達のしていることに興味をもち、友達と遊ぶ楽しさを感じる ○自己主張が強く玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いになることが多いが、保育者を仲立ちとして、相手の思いを聞こうとする ○身の回りの物や使った玩具を保育者や、友達と片付けようとする ○保育者の言葉がけで危ないことや、してはいけないことを知る
	体	○走る、ジャンプするなど体を動かす ○保育者や友達と一緒に集団遊びを楽しむ ○散歩に出かけることで、戸外の自然に触れて遊ぶ ○スプーンやフォークを持って、一人で食べようとする ○苦手な物も、少しずつ食べてみようとする ○尿意便意を知らせ、トイレで排泄するようになる ○衣服の着脱に関心をもち、保育者に言葉をかけられながら、衣服の着脱や片付けをしようとする
経験させたい主な活動	・全身を使う遊びを楽しむ(後ろ向きに歩く、三輪車を片足で蹴ったりこいだりする、転ばずに走る、高さが違ったり、少し間隔があいたりしている箱を使いバランスを取って渡る) ・友達と一緒に遊ぶ(なべのなかのくり、むっくりくまさん等) ・手指を使う遊びをする 紙…丸める、破る、ちぎる 粘土…手のひらで押ししたり細く伸ばしたりする・指先に力を入れて形を変える シール貼り、カップ重ね、型はめ、洗濯バサミ ・絵合わせパズルで遊ぶ、色ごとに集める ・ごっこ遊び(友達や保育者と簡単なやり取りをして遊ぶままと、人形遊び) ・園所庭を探索したり散歩をしたりする ・身の回りの物で遊びながら、見立て遊び、生活再現遊びをする ・簡単なルールのある遊びをする(鬼ごっこ、かくれんぼ、ひっこしゲーム、しっぽとり等)	

＜家庭との連携＞

- ・身の回りのことを全部自分でやりたいと興味が出てくる時期であるので、子どもが自分で着替えやすく、できた嬉しさを感じられるように、扱いやすいボタンやスナップの大きさなどを具体的に知らせていく。
- ・保護者が子どもにして見せたり、今後、子どもたちの様子に合わせて教えたりする時の参考になるように、箸やスプーンなど成長に合わせた使い方、トイレトペーパーの切り方、たたみ方、拭き方等、伝えていく。
- ・基本的な生活習慣を身に付けていけるように、家庭での方針を聞きながら、その子どもに応じた時期や方法を家庭と園所で共に考え進めていく。

教育的意図をもった働きかけ	知の視点から	・身の回りの物や生き物などへの興味をもてるように、子どもからの問いかけに丁寧に応じ言葉の獲得につなげていく ・繰り返しや、やり取りの面白さが入った絵本を用意する ・生活や遊びの中で、大小、形、色、数など、物の違いを見分ける力を育むために、保育者は環境を整えたり、意図的な関わりをしたりする
	徳の視点から	・じっくりと楽しめる環境を整え、できたという満足感を味わえるようにする ・思いや要求を自分なりに相手に伝えようとする気持ちを受け止め、共感する ・具体的に言葉を知らせたり、伝えたいことを仲介したりするなど、伝えようとする気持ちを支え、伝わった嬉しさを感じられるようにする ・友達との関わり方を伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように仲立ちとなる
	体の視点から	・遊びの広がりや子どもの動線を考慮しながら遊具などを安全に配置し、体を動かす遊びを十分楽しめるようにする ・食事の機会や遊びを通して、スプーンやフォークから箸に移行できるように手を添えながら、正しい持ち方を知らせていく ・排泄の自立は個人差があるため、一人ひとりの排尿間隔を把握しタイミングを見ながらトイレに誘っていく ・緊急時に備え、日頃から保育者の話を聞き、一緒に行動できるように繰り返し伝えておく ・睡眠中は、うつ伏せにならないように体位変換し、寝具の掛け方や呼吸・顔色・嘔吐の有無等、睡眠状態を常に観察し、記録するなどして窒息等の事故を予防する

友達と一緒に・・・



「わあーい！水が流れたよ！！」



「ここにもあった！」



「手伝うよ」



的をめがけて・・・

